

第8回 福冷かわら版

平成二十九年十一月十三日(月)

両筑製氷冷蔵株式会社 甘木工場 事務所にて

山之口 本日はお忙しい中、お時間をとっていただきましてありがとうございます。早速ですが、『福冷かわら版』と題して、会員事業所様のPRと責任者の方のご紹介を目的に皆様方を訪問させていただき、いろいろなお話を伺う企画でお邪魔しました。今回は第8回目ということで、両筑製氷冷蔵株式会社取締役社長古賀速一様と専務取締役古賀正希様のお二人にお話を伺って参りたいと思っております。宜しくお願い致します。この度は社長ご就任おめでとうございます。今日は正希専務様も御同席いただいておりますので、はじめに御社の沿革を教えてください。



創業当時のままの田主丸工場（貯氷庫は現在も活用）



現在の両筑製氷冷蔵株式会社甘木工場

古賀(正) 元々私の父は耳納山麓で農家をしており、小作の方々に農地をお貸ししながら、両親の面倒を見ていました。戦後は農地改革で土地は無くなりました。一方昭和十三年に、伯父(父の兄)が田主丸で製氷会社をはじめたのですが、田主丸町より要望がありまして、地元有志に働きかけて昭和二十五年に田主丸魚市場を開設しました。そこで伯父一人じゃ手が回らなくなりまして、兄(久視前社長)が手伝うようになったわけです。当時は魚市場と云ってもスーパーマーケット位の規模のもので、毎日二十人程の仲買さんが競りをしていました。伯父の市場はその後吉井魚市場に一本化されて、最終的には、近隣の甘木・杷木・吉井・田主丸四つの地域の魚市場が合併していったので、それからの家業は製氷と冷蔵倉庫に専念しました。そういう経緯で、昭和五十二年にこの甘木工場を増設しました。

山之口 ちょうど四十年前ですね。

古賀(正) そうです。私が三十一歳でしたから。

山之口 当時はこちらは更地だったんですか。

古賀(正) まっさらです。田圃でしたから。それで融資を受けて、土地を買って整地して、本社も自宅も全て抵当に入れました(笑)借金はおかげさまで無事完済しましたが、高度成長期の良い時代でした。先駆者の河合さん達が大型をどんどん建てられていた頃ですから、そういうするうちにバブル景気も来たり、利息も高かったけどよく回っていましたよ(笑)

山之口 当時の荷物はどのようなものを保管されてましたか。

古賀(正) 田主丸本社では地元の野菜や、柿(昭和四十五年頃から)、それからふくれんさんのドラム缶です。

山之口 柿は冷蔵保存することで甘みが増すのですか。

古賀(正) 柿は秋の時期ものだから、一度に出荷すると値段が安くなります。それで出荷時期を調整する為に、保管温度や貯蔵方法を研究したわけです。最初は浮羽農協からの依頼でしたね。当時は農家の皆さんと共に大変に苦勞(試行錯誤)しましたけれど、今は三月末迄は



地元の柿の商品価値を高めた冷蔵保存法は高く評価された

氷の生産と販売も甘木工場ですか。

古賀(正) そうです。うちは出来高が日産五屯で多くないから、水産氷は作っていません。



古賀正希専務

保管出来るようになりました。果物の出荷調整なんて誰もやってなかったから。成功した時は農家の皆さんに感謝されました。柿が高く売れるって(笑)うちは地域密着ですから個人農家の方々とのお付き合いが多いですね。

山-口 それでは古賀社長にお尋ねいたしますが、今回、お父様や伯父様が礎を築いてこられた歴史ある会社の代表に就任されましたが、社長就任に際しての抱負と会社の特色を教えてください。

古賀(速) そうですね。今までの保管型の冷蔵庫から、これからは動きがある物を取り扱う事で、他社との競争力を養いたいと思っています。新しい技術を取り入れたり、荷物の在り方も考えて行かないといけませんし、時代の流れに対応出来る様な企業になりたいと思っています。

山-口 去る7月に朝倉地方を襲い



古賀速一社長

ました九州北部豪雨では、生活基盤を壊され、真夏の暑い中、家を失った被災者の方々に対して地域の皆さんと共に、『氷』を毎日、無償で提供される等、ボランティア活動にご尽力なさいましたが、具体的にはどのような活動をなさったのでしょうか。また支援活動を続けられた中で、現地では分からないこと、感じたことなどをお聞かせください。

古賀(速) やはり地元の災害ですし、被災された方の中にはお客様も多数おられましたから、幸いにして当社は被害を免れましたので、なにかしなければいけないと思っていました。もちろん仕事も生活もありませんから、土砂を掻きだすなんて僕らには無理でしたので、どうしたものかと考えていたところに、朝倉市の社会福祉協議会の方が氷を少し分けてくださいと取りに來られて、ちょうど七月の熱い時期でしたから冷たい氷が役に立つのではと考



被災地で配布したかき氷

えて、無償で毎日お渡ししました。協会にはその後製氷委員会を通じて、現状を理解していただいて会員の製氷各社に御協力頂いて九月迄の三カ月間に合計で七十屯以上の氷を被災地にお渡しすることが出来ました。地元の皆さんも、社会福祉協議会も大変喜ばれてとても感謝されました。また個人的には有志を募ってボランティアセンターでかき氷を配りました。暑いし、保健所の許可も取り易かったですから、発砲スチロール



被災地でボランティア活動をした仲間の皆さん

に、予め作って並べておいたものも含めて、一日に八百杯くらいお配りしました。その影響でしようか、ライオンズクラブをはじめ多くのボランティアの方々が氷を買いに来られまして、かき氷の支援をなさっていましたね。

山之口 協会にも地元で氷が手配できる場所は無いかと、何度か問い合わせがあっていました。

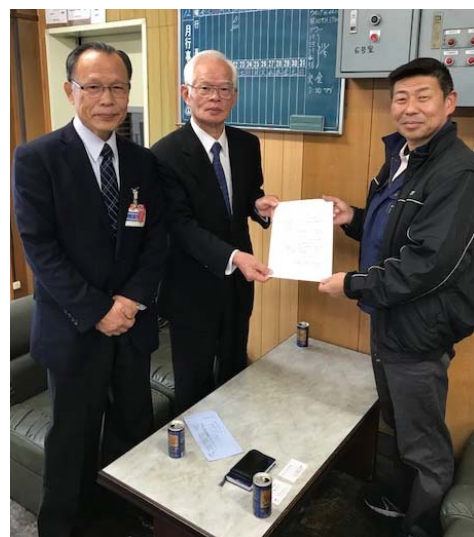
古賀(速) あの時はいろんな方が氷を売ってくれと毎週来てましたから。実際被災された皆さんは、随分と喜んでおられましたよ。僕らもかき氷支援は何度も実施する予定でしたが、多くの皆さんが支援してくれましたので助かりました。

山之口 現在協会は福岡県と災害時の保管協定を結ぶために働きかけているところですが、今回の氷の支援が注目されているようです。

古賀(速) そうでしたか。地域の人の為になることをしてたら、将来自分のとこに帰ってきますから、元々田主丸の頃から「地域と共に」が当社の信条でしたから。皆さんに育てられてきましたからね。そういった大事な部分は社長として受け継いでいかなくはとと思っています。それから身の丈に応じた商売をしないとけませんね。謙虚な気持ちが大それたと思っています。

山之口 これからは、古賀社長について、お聞かせください。

古賀(速) はい。あまり自慢できるものはありませんが(笑)高校は地元の浮羽東高校の商業科でしたが、元々家業を継ぐつもりでしたので、大学進学は考えておりませんでした。高校時



朝倉市から感謝状を頂く

代までは田主丸でも氷を作っていましたから、手伝いもしましたし、このまま大学も行かずに氷を作っていたら良いと思っていたところに、父から「それじゃいかん。進学しろ。」という事になって、日本経済大学に入学しました。その頃は景気も良かったですから、忙しくてね、授業

が終ったら友達連れて来て、アルバイトしてもらってましたね。それで一緒にコンテナから荷物降ろしてました(笑)父は毎日、僕の時間割見れば仕事の割り振りをしてましたね。何のために大学に行ったのかよくわかりませんでした(笑)それで父の心臓の具合が悪くなったので、卒業してそのまま手伝う事になりました。

古賀(正) 本当は外に四、五年は出したかったんですけどね。兄の体調が思わしくなくて、速一君がうちに入ってからは、私が社長代わりでした。

古賀(速) 久留米の病院で一週間持たないと云われたのに・・・あれから云十年ですから・・・騙されたんでしょうね。十年前までは喧嘩しても私のほうが負けると思っていましたよ(笑)

山之口 座右の銘はありますか。

古賀(速) 座右の銘はと云うか、先程の話にもありましたけど「地域と共に、地域と発展」をモットーにしております。

山之口 本業とご家庭と、協会活動以外にも地域の名士としてご活躍と伺っておりますが、どのような団体のお世話をされてこられましたか。古賀(速) 今は商工会青年部の健全育成会長です。PTAの副会長と消防団はもう終わりましたね。PTAはまだ三十代でしたからね。



■古賀 速一 両筑製氷冷蔵(株) 代表取締役社長

久留米市田主丸町出身。日本経済大学卒業後、平成4年両筑製氷冷蔵(株)入社。田主丸工場勤務。平成16年取締役就任後、同29年代表取締役社長に就任現在に至る。

協会活動は、平成24年より企画委員(至現在)、同29年より製氷委員も兼任する。

趣味は“酒飲み”。モットーは「地域と共に、地域と発展」。家族は妻と2男2女1孫。昭和45年戌年生まれ47歳。

もう若い頃からいろいろと経験させていただきました(笑)

山之口 ご結婚は何歳でされましたか。それからご家族様は。

古賀(速) 平成七年に、二十三歳の時です。子供は四人です。女女男男の順番の二男二女です。孫もいます。子供は大きくなるのが早いですね。

山之口 お子さんとお孫さんとどちらが可愛いものですか。

古賀(速) 僕の場合は、空(間)が無かったから、同じようなものですね(笑)自分がおじいちゃんになって、久しぶりに小さい子供を見たわけではないですから、可愛さはそんなに変わらないです。

古賀(正) そりゃやっぱり孫の方が可愛いですよ(笑)

山之口 最後に協会に対してご意見やご要望はありますか。

古賀(速) これからも協会活動を頑張っていきたいと思っています。自分の出来る範囲です(笑)まだまだ協会が発展してもらわないと困りますから。

山之口 私たちも応援いたしておりますので、頑張ってください。本日はお忙しい中、御協力頂きましてありがとうございます。